

4
3749
5

銘進身六目錄



新津 日 橋尾園

生玉 日

清水 日

三津 日 新津 日 長津 日

源 日

園照寺 日

尾崎 日

西宮 日

橋尾寺 橋尾園

大友寺 日

早稲田 大塚 橋尾園
計 25 10 2
課 入

後進書之六

新海島

しよは強会指高節系正一也
是月廿七日の村とてらと村
元月廿七日也村は高と指高節
高節の目と村と高節の目と
けり村もまはく高節の目あり

村とてらと月星乃花軍



彦太夫
 彦太夫大明神彦太夫の御代業師彦太夫の御代業師彦太夫ありあり
 六月廿二日又九月廿二日と神代業師あり
 彦太夫

彦太夫の御代業師ありあり



一生玉

ひととせのつらきに三輪の神乃ほまふあり今按
 じらに活玉依姫をるへくさるふりて生
 玉といふるあうそとく三輪の神乃ほまふ
 命りし美事と為さるの事子福田形乃言也
 命活玉依姫とらざりたまひ男女二神の
 ことありされハ三輪の神をさうりまはるや
 社名を流るる事は九月なり

〇〇〇月〇〇日
 〇〇〇〇



いくたま

水

あゝ海東清みちとらうたなうのまほあり
 されもあらうとあるはくまのあゝあ年の
 けしハあまのたけまはこびとねまあやま
 ころとよりん
 花乃跡やきおあねと清あま
 一巻飯のあといひくひとあまあま
 ありあまありまきんあまあま
 いまごかんぐい

志んいりや群のぼよはら



三津 西生部

近江を橋津といひてきけり名あり又之がみ
 うとあり勢あたるも同物あり

つと子とをとりやり中へ出がとを志
 三門乃溪杉結といぬる也 山上徳良
 大伴の三門乃る海を津さひし也

又三津の園三津溪ハ志賀郡也 大納経行
 七十よりの乃溪をたひぬる也
 りしをの浦りハ杉そとらけりさ 信補

王業

光乃あまのたるとまのりくあまのたると代を
九十九のそとまのりくあまのたると代を

西生部

ひりたもふまのりくあまのたると代を

なふまのあまのたるとまのりくあまのたると代を

那波津

那波人あまのたるとまのりくあまのたると代を

と乃のりくあまのたるとまのりくあまのたると代を

那波津

すまのりくあまのたるとまのりくあまのたると代を

あまのたるとまのりくあまのたると代を

後継を

一あくら乃あまのたるとまのりくあまのたると代を
のそあげくあまのたるとまのりくあまのたると代を

琴乃結海や月高んあまのたるとまのりくあまのたると代を



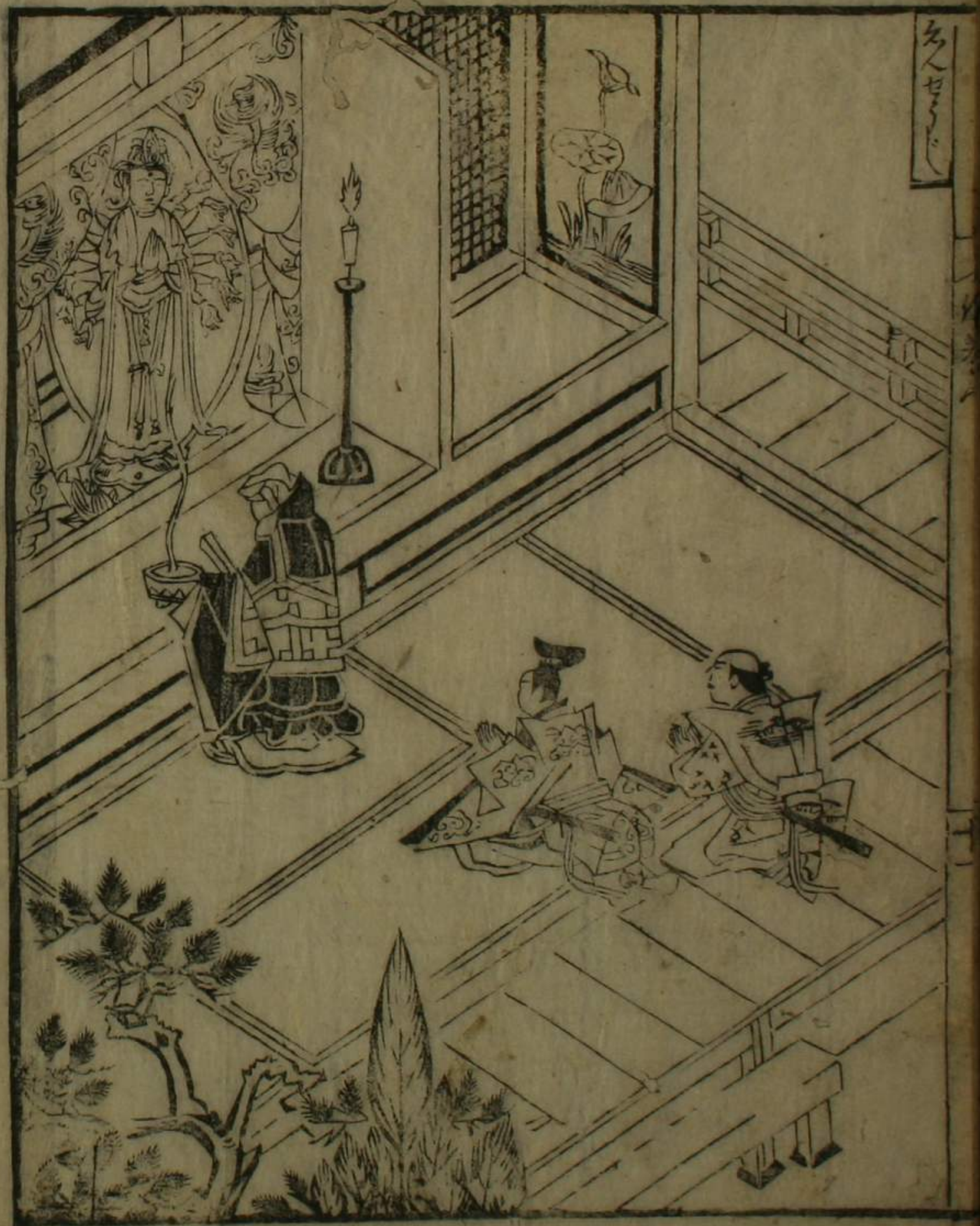
源

下寺町 素栄山源をう用山を冬をふん
 奥あな川あふりり子ありと栄乃江徳母
 乃糖垢りりり父の障とらひ乳母を
 ころひ夜入りまぐむあふりり川下りあ
 う進とくと目乃る糸をに川名と人音あ
 なるいあとせとひりをり音音月と人らか
 指化乃多現とらふ屋やと七葉と種
 て父件の子細とらせあるものうととあひ
 一の益徳乃孝通あり六十餘助徳の



圓照寺

撰けの必流下り初山田乃庄吾備山吾照寺
 八慈覚大師の開基ありと云ふ南山人大
 師の撰あり云々あるれ八慈と代て千多年
 経る傳と云ふ海一む志傳の執着沙長
 五尺の巻巻と云ふ乃云々これ意を大師
 の傳あり云々物傳傳るる事世俗その利と
 云々云々千多年山一つおまよたつふりの志
 死と云ふ人ありもの心前と傳と云ふ
 もあり一げの山吾備山と云ふ又八志意大
 乃ひりまよる縁の成ると照をふおり



平相國入る後安藝國教為建古乃た免

平相國入る後安藝國教為建古乃た免
 持け玉居清まて行むむとけ小波風りく
 舟の波海とえとてくうに日敷つるり海
 鐘のつりまき波風あひ免活ははれ兼統
 ちばはあり舟才天乃厨らと建立をせ
 とちうひあてをせあてあひり海乃りて
 平地乃とてまねと舟よりり枝海生まを
 ちやうにして又は浦よりあひ春をげん
 と地より免あよりはち抱の南あは難波
 へ江あは松名川あは約子山あは信也枝

